



小澤征爾 ©Shintaro Shiratori



ローランド・アルトマン



竹澤恭子 ©Tetsuro Takai



武久源造

5.15 [金] 17[日] 水戸芸術館開館 25 周年記念事業 水戸室内管弦楽団 第93 回定期演奏会 稀代のソリストたちと待望の協演！ そして小澤征爾×MCO によるベートーヴェン交響曲の旅

文 高巢真樹

大盛況のうちに終演した1月の定期演奏会に続いて、小澤征爾総監督が出演する水戸室内管弦楽団（MCO）第93 回定期演奏会。第1部は指揮者なしで、ローランド・アルトマン（ティンパニ）、竹澤恭子（ヴァイオリン）をソリストに迎えるステージ。第2部は、マエストロ小澤とMCOが近年集中的に取り組んでいる、ベートーヴェンの交響曲をお届けします！

MCO に新しい風を吹き込む演奏家 ローランド・アルトマン、竹澤恭子

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のソロ・ティンパニ奏者を36年間務めたローランド・アルトマン（ティンパニ）。カルロス・クライバーやレナード・バーンスタインら名匠の信頼厚く、とりわけマエストロ小澤とは格別の友情で結ばれ、2012年にMCOへ新楽団員として加わりました。「オーケストラのティンパニ奏者は“第二の指揮者”だと思ふことがある」と以前語っていたアルトマン氏。作品と楽団の特性を熟知した上で奏でられる絶妙なティンパニの演奏は、まさにその言葉にふさわしく、今やMCOになくなくてはならない存在です。ドイツの作曲家オットマール・ゲルスター（1897～1969）が1932年に作曲した〈ティンパニと弦楽のためのカプリチエツト〉では、

アルトマン氏の変幻自在なティンパニ・ソロをたっぷりお楽しみいただけます。

続いての登場は、ヴァイオリニスト・竹澤恭子。共演した名指揮者や名門オーケストラは枚挙に暇なく、四半世紀にわたって国際舞台で活躍を続けています。MCOには2014年の第89 回定期演奏会に参加。全身から音楽が溢れ出すような弾きぶりで新風を吹き込み、同年7月のソロ・リサイタルでは、竹澤さんならではの圧倒的な求心力のある演奏で会場を沸かせました。1775年に作曲されたモーツァルト（1756～1791）の〈ヴァイオリン協奏曲 第5番“トルコ風”〉は、10代だったモーツァルトの作曲活動の締めくくりにあふさわしい堂々とした風格と完成度を具え、また若々しい喜びに満ちています。MCOは、2003年に小澤総監督指揮、故・潮田益子さん独奏で同曲を演奏・CD収録していますが、今回の竹澤さんとの共演にも期待が高まります！

小澤征爾総監督率いる MCO ベートーヴェンの交響曲 第2番

第2部は、小澤総監督指揮によるベートーヴェン（1770～1827）の〈交響曲 第2番〉。ベートーヴェンが聴覚の異常に悩み、「ハイリゲンシュタットの遺書」を書いた頃と同時期の1802年に

作曲されました。しかしながらこの交響曲には深刺とした快活さがみなぎり、また第3楽章がメヌエットではなく力強いスケルツォになるなど、作曲家として進化を遂げるベートーヴェンの強い意志が感じられる作品です。館長就任後初となった2014年1月の第89 回定期演奏会から、4番、7番、8番とベートーヴェンの交響曲への挑戦を重ねているマエストロ小澤とMCO。音楽への最大限の献身で結ばれた両者による入魂の熱演が、コンサートホールA TMにまたひとつ新たな伝説を刻むであろうひととき…どうぞご期待ください。

ローランド・アルトマンさん インタビュー

—ドイツの作曲家、オットマール・ゲルスター（1897～1969）作曲〈ティンパニと弦楽のためのカプリチエツト〉を初めて演奏されたのは、ウィーンの楽友協会だったそうですね。

アルトマン: ええ、40年ほど前、テオドル・グシュルバウアー指揮のウィーン・バロック・アンサンブルと共演した時で、オーストリア初演だったと思います。弦楽器と演奏するのはこれが2度目ですが、今回はカデンツァ付きで演奏します。元々この作品に必要なティンパニは4つですが、今回はカデンツァのためにも

5つ使って、高音や新しい音色を駆使した独奏をお届けします。

— この曲のどのようなところに魅力を感じていらっしゃいますか？

アルトマン：ゲルスターは、ティンパニがやっていることを聴衆に伝えたかったのだと思います。大オーケストラで全員が演奏する時、ティンパニがどんな演奏をしているか気付きにくいですね。この曲では音楽の土台は弦楽器が作りますが、それ以外に聴こえるのはティンパニだけ。そこに魅力を感じます。

具体的に作品を紹介しましょう。最初の8小節は、イントラダ〔注：16、17世紀の舞台作品などで重要人物の登場の際、演奏された器楽曲〕のように始まります。その後、マーチのように厳格でリズムカルな音楽が続き、その後、ティンパニと弦楽の間でピンポンのようなやりとりがあり、静かで穏やかなソロがあります。民謡のような4小節からなるメロディで、嵐が訪れる前の静けさを思わせます。それから弦楽器がどんどん早くなり、嵐が訪れます！その後弦楽器だけの部分が続き、新しくミステリアスな音色で、ティンパニのソロ。そして次のアッチェレランド〔注：だんだん速くという意味〕が来て、

荒れ狂うようなアレグロの部分が現れます。そのとき、私がカデンツァを演奏します。その後は最初に登場したマーチ風の音楽が再び現れて終わりを迎えます。

— アルトマンさんは、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団でのご活躍の他、現代音楽のスペシャリストとしても活動されていました。その中でどのようなことを大切にされていましたか？

アルトマン：音楽や絵画といった芸術に携わるのならば、自分を取り巻く時代に目を向けることが不可欠です。特に打楽器の世界では次々と新鮮で興味深い音楽が生まれていますので、どんどんやってみるべきです。私は同時代の音楽を演奏するグループに参加し、新しい可能性に挑戦できて、本当に幸せでした。その一方でもちろん、古典派やロマン派の作品も演奏してきました。そうした経験はいわば、美術館を巡るようなものです。時にルーベンスやミケランジェロの絵画を見て、時に現代のアーティストの作品を見て…私はどちらも好きです。特に現代の作品にはいつも驚きと興味深さを感じます。好き嫌いはその人の自由ですが、まず作品を見てみようという好奇心は大切だと思います。

— 聴衆の皆様へメッセージをお願いしますか？

アルトマン：私が演奏中にスティックを落とさないよう、祈っててください！もし落としたりしたら…少し大目に見てもらえると嬉しいです（笑）。冗談はさておき、皆さんには、この素晴らしいMCOの演奏会をぜひ楽しんでいただければと思います。

2015年2月
聞き手：高巢真樹

※当館コンサートホールATMブログに掲載した、アルトマンさんへのインタビュー「新楽団員を訪ねて」(2012年10月)では、ウィーン・フィルでの活動についてもお伺いしました。ぜひそちらもお読みください！

水戸芸術館開館25周年記念事業
水戸室内管弦楽団
第93回定期演奏会

5/15 **金** 18:30 開場
19:00 開演
5/17 **日** 13:30 開場
14:00 開演

会場 水戸芸術館コンサートホール ATM
全席指定 S席 15,000円、A席 12,500円
B席 10,000円

出演 小澤征爾 (指揮)
ローランド・アルトマン (ティンパニ)
竹澤恭子 (ヴァイオリン)

曲目
ゲルスター：ティンパニと弦楽のための
カプリチエツト
モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲 第5番 イ長調
K.219 “トルコ風”
ベートーヴェン：交響曲 第2番 二長調 作品36

5.16 **土** 高校生のための水戸室内管弦楽団メンバーによる公開レッスン 吹奏楽で〈シャコンヌ〉を奏でよう！

文 篠田大基

MCO 第93回定期演奏会の時期に合わせて、5月16日に、MCOメンバーが高校生の吹奏楽を指導する公開レッスンを開催します（茨城県、県教委、いばらき文化振興財団との共催）。このレッスンは、高校生だけでなく一般の方も無料でお聴きいただけ、演奏指導のほか、講師によるミニコンサートもありますので、ぜひお楽しみに！ しかも今回の講習曲はきつと、吹奏楽ファンだけでなく、クラシック・ファンにも関心を持っていただけるはず！ 今回取り上げるのは、バッハの有名な〈シャコンヌ〉（無伴奏ヴァイオリン・パルティータ 第2番の終曲）を森田

一浩氏が吹奏楽に編曲した作品なのです。〈シャコンヌ〉といえば、小澤征爾館長をはじめMCOで活躍する多くの演奏家を育てた斎藤秀雄氏がオーケストラに編曲して弟子たちに伝授した作品。MCOメンバーにとっては大切な曲です。今回のレッスンに参加するのは、つくば市にある中高一貫校の並木中等教育学校の吹奏楽部。今夏、滋賀県で行われる全国高等学校総合文化祭に県代表として出場する皆さんです。MCOの豪華管楽器講師陣の指導のもと、高校生たちが演奏する〈シャコンヌ〉。アンサンブルの奥深さと楽しさを感じていただければ幸いです。

高校生のための水戸室内管弦楽団
メンバーによる公開レッスン

5/16 **土** 14:00 開場
14:30 開始予定
会場 水戸芸術館コンサートホール ATM
講師 工藤重典 (フルート)

フィリップ・トンドゥル (オーボエ)
トッド・レヴィ (クラリネット)
中 秀仁 (サクソフォン)
マーク・ゴールドバーグ (ファゴット)
猶井正幸 (ホルン)
ラデク・パボラーク (ホルン)
デイヴィッド・ヘルツォーク (トランペット)

入場無料 (要整理券)
整理券配布場所 水戸芸術館、
茨城県立県民文化センター、ほか
主催 茨城県、茨城県教育委員会、
(公財) いばらき文化振興財団、
(公財) 水戸市芸術振興財団

6.17 水 ちよっとお昼にクラシック 武久源造 (フォルテピアノ)

BACH SPIELTE AUF DIESEM KLAVIER

—このピアノを、バッハは弾いた—

文 篠田大基

昼下がりのコンサートホールで優雅なひとときをお過ごしいただける人気のコンサートシリーズ「ちよっとお昼にクラシック」。6月17日のコンサートでは、国内に1台しか存在しない貴重な楽器が登場します。かのヨハン・ゼバスティアン・バッハ(1685～1750)が弾いたピアノの復元品です。題して、「このピアノを、バッハは弾いた」——バッハやその息子たちの音楽を、彼らが実際に弾いていたピアノの音色でお聴きいただきます。バッハの鍵盤音楽のスペシャリストである武久源造さんの演奏と解説で、どうぞご堪能ください。

「バッハが弾いたピアノ」と聞いて、いぶかしがる方もいらっしゃるかもしれませんが。バッハ自身は「ピアノのため」と銘打った作品をまったく残しませんでした。バッハの鍵盤音楽がピアノで演奏されることは多々ありますが、やはりオルガンやチェンバロでの演奏が主流でしょう。「ピアノ」が発明された当時の正式な名称は、「クラヴィチェンバロ・^{ピアノ}コル・ピアノ・エ・フォルテ(弱音も強音も出せるクラヴィチェンバロ)」。古い時代のピアノを現代のピアノと区別する意味で「フォルテピアノ」という呼称もありますが、いずれにせよ、その名前のおとおり、強弱の表現がピアノの大きな特徴です。18世紀の頃から、ピアノでの演奏を想定して書かれた作品には強弱の指示が頻出する傾向があります。しかし、バッハが楽譜に「ピアノ」や「フォルテ」といった指示を書くことは、ほとんどありませんでした(強弱をつけずに演奏されたという意味ではありません)。

しかし、バッハは生前、実際にピアノを弾いていたのです。ピアノはイタリアの楽器職人バルトロメオ・クリストフォリによって1700年頃に発明され、バッハが生きたドイツでも、オルガン職人のゴットフリート・ジルバーマン(1683

～1753)によって1730年代に製作されています。彼はクリストフォリのピアノを手本に、さらなる改良を施して独自のピアノを完成させました。今回のコンサートで皆様のお目にかかるピアノは、1750年に世を去ったバッハが生涯の最後の時期に触れたであろう1747年製ジルバーマン・ピアノの復元品です。

なぜバッハは「ピアノのため」と銘打った作品を書かなかったのでしょうか？ これまで、それはバッハがピアノという楽器を評価していなかったからだ、と信じられてきました。バッハが初めてピアノに触れたときのことを、バッハの直弟子が伝えています。その逸話をひも解いてみましょう。

「ゴットフリート・ジルバーマンはこの楽器〔注・ピアノのこと〕を手はじめに二台製作したのだった。その一台を、いまは亡きヨハン・ゼバスティアン・バッハ氏が実見し、かつ、試奏した。彼はその響きをほめた、というよりは激賞したといってよいが、しかし同時に、高音部が弱すぎるうえに、弾きづらいという指摘もつけ加えた。自分の製品に少しでもけちをつけられることに我慢のできないジルバーマンは、これを聞いてすっかりつむじを曲げてしまった。」

(『バッハ叢書10』(白水社、1983年)所収、シュルツェ編「原典資料でたどるバッハの生涯と作品」酒田健一訳より)

この記述をもとに後世の音楽史家は、バッハはピアノに対して、製作者のジルバーマンを怒らせるほどの厳しい評価を下した、と考えたわけですが、よく読んでみれば、バッハはジルバーマンのピアノの欠点を指摘しただけではなく、その響きを「激賞した」(!)とも書いてあるのです。

もしかするとバッハは、ピアノに大いなる可能性を見出していたのかもしれま

せん。事実、バッハの伝記や遺品の研究からは、この後も彼がジルバーマンのピアノの性能を検査したり、自分の演奏会でピアノを使ったり、さらには販売まで手伝っていたことが、明らかになってきています。

バッハがちょうどピアノという楽器を知った頃に作曲した作品が、6月のコンサートで取り上げられます。〈パルティータ第4番〉BWV828です。全部で6作品ある〈パルティータ〉は、1726年からほぼ年に1曲のペースで作曲されていた、当時のバッハの技法や知識の集大成ともいえる作品です。そして大変興味深いことに、特に後半の第4～6番では、チェンバロよりもむしろピアノに適しているようなダイナミックな表現、言い換えればピアノ的な表現語彙が登場しているのです。今回のコンサートに先がけて、武久源造さんがジルバーマン・ピアノで録音した〈パルティータ〉全曲のCDが4月7日に発売になりました(コジマ録音ALCD-1148/9)。このCDを聴けば、きっとジルバーマン・ピアノの実物をご覧になって、バッハが讃えたその音色を生でお聴きになりたいのではないでしょうか？ 貴重な楽器をコンサートホールに持ち込んで開催するコンサート。ぜひお楽しみになさってください。

ちよっとお昼にクラシック
武久源造 (フォルテピアノ)

6/17 水 13:00 開場
13:30 開演

会場 水戸芸術館コンサートホール ATM

全席指定 1,500円 (1ドリンク付き)

出演 武久源造 (フォルテピアノ)

曲目

J.S. バッハ: 2声のインヴェンション 八長調

BWV 772

半音階的幻想曲とフーガ 二短調

BWV 903 より 幻想曲

パルティータ 第4番 二長調 BWV828

C.P.E. バッハ: ロンド イ短調 Wq56-5 H.262

J.C. バッハ: ソナタ 長調 作品5-3

6.28日at 14:00 Duo ponte nota リサイタル 2015

私たちは桐朋学園大学在学中だった2001年、故・ゴールドベルク山根美代子先生の元でデュオの勉強を始めました。あれからあっという間に15年が経ちました。年月が経つにつれ、デュオの難しさ、奥深さを痛感していますが、同時に2人で演奏できることの喜びも大きくなっています。

15年という節目の演奏会のメインには、ヴァイオリンとピアノの為に書かれた数多くのソナタの中から、珠玉の名曲の一つと言われているフランク作曲の〈ヴァイオリン・ソナタ〉イ長調を選びました。それぞれのパートが、高度な演奏技術と音楽性を求められる曲です。これは、フランクが友人であったヴァイオリニストのイザイの結婚祝いに書

いた曲で、全4楽章の中でも特に有名な最終楽章は、ピアノと同じ旋律をヴァイオリンが追いかけていきます。まるで笑顔で寄り添い歩く新郎新婦の姿が見える様な美しい楽章です。今まで何度かこのソナタは演奏していますが、弾くたびに好きになる。そんな素晴らしい曲です。

また、少し前から日本人の作曲家の曲もプログラムに入れたいと考えており、今回の演奏会では、芥川也寸志作曲の〈ヴァイオリンとピアノのためのバラード〉を演奏致します。前衛的な作品ですが、私たち日本人には親しみやすい旋律ですので、現代曲!!と身構えること無くお楽しみ頂けるとと思います。

他には、モルダウを作曲したこと知られるチェコの大作曲家スメタ

ナの〈我が故郷より〉、バルトーク作曲〈ルーマニア民俗舞曲〉なども演奏致します。

デュオは、結成して10年～15年経ったところがスタート地点だと聞いたことがあります。私たちはやっとスタートしたばかりのよちよち歩きですが、15年模索してきた自分たちの音楽を表現したいと思っています。ぜひお誘い合わせの上、ご来場いただければ幸いです。



Duo ponte nota
(加藤直子、片田道子)

最近の公演から

2015.2.22 谷田部ひさみ ピアノ・リサイタル

水戸市在住のピアニスト・谷田部ひさみさんによる、水戸芸術館で初のソロ・リサイタルが開催された。ショパンの誕生日でもあるこの日に、その晩年の傑作を中心としたオール・ショパン・プログラムが組まれた。前半は〈4つのマズルカ〉作品33や〈バラード 第4番〉作品52など、後半は〈舟歌〉作品60、〈ピアノ・ソナタ 第3番〉作品58を演奏。大曲揃いのプログラムに真っ向から取り組んだ谷田部ひさみさん。ショパンの多彩な魅力にせまる演奏に、盛大な拍手が贈られた。《高巢》アンケートから■大変華のある演奏で、聴き終えて心が晴れやかなる思いでした。今後に期待しています。(東海村の方) ■ご盛会おめでとうございます。“キレイ”な音、聴かせてもらいました。新たなステージに向けて、前進してください。(ひたちなか市の方) ■初めてのリサイタルとのこと。おめでとうございます。本日を迎えるまでに、どれほど練習をしたのでしょうか。今日は、耳と目の保養をさせていただき、本当に有難うございました。(水戸市の方)

2015.2.25,26,27 中学生のための音楽鑑賞会 2015 2015.2.27 ちょっとお昼にクラシック

日本を代表するチェロ奏者の一人で、水戸室内管弦楽団メンバーの松波恵子さんを中心に、島田真千子さん(ヴァイオリン)、小山清さん(パソーン)、川村文雄さん(ピアノ)という名手たちが集まり、ソロに室内楽に盛りだくさんの演奏会が開催された。水戸市内の中学1年生約2,500名のために5回公演した後、27日の午後には同内容で一般向けの公演を行った。《関根》中学生の感想から■4つの楽器で一緒に演奏したり、ソロで演奏したり、いろいろなパターンの音楽がたくさん聴けて、とてもいい時間を過ごせました。(緑岡中学校の生徒) ■いつもはロックや洋楽を聴いているが、クラシックも心に響くとてもいいものだった。(双葉台中学校の生徒) ■ただ演奏するだけではなく、楽器の事を詳しく教えてくれたのでとてもわかりやすかった。(石川中学校の生徒) ■楽器によって曲のイメージが変わるのが面白く、重奏はきれいで聴き入るような感じだった。(内原中学校の生徒)



1: 谷田部ひさみ ピアノ・リサイタル
2: 中学生のための音楽鑑賞会 2015

2015.3.1

茨城笛の会 第35回日本フルート フェスティバル in 茨城

県内で活躍する30名を超えるフルート奏者から成る「茨城笛の会」による演奏会。同メンバーのステージに加え、6名の小学生、8名の中学生、さらに、県内各地より公募で集まった約50名のアマチュア奏者と30名の笛の会メンバーで組織された「フェスティバルフルートオーケストラ」の演奏も行われた。青木明氏、高久進氏の指揮で、ピッコロから、ダブルコントラバス・フルートまで、様々な音域をもつフルートが一堂に会するフルート・オーケストラの魅力が伝えられた。また、会議場では国内フルートメーカー各社による展示・リペア会も開催された。《中村》アンケートから■一本のフルートも素晴らしいですが、大編成のフルートも素晴らしい！厚みのある音色に感動しました。(水戸市の方) ■フルート・オーケストラならではの優しい音色のハーモニーが美しく、素晴らしいかったです。フルートだけでオーケストラができてしまうなんて感激です。(東京都の方)

2015.3.8

避難訓練コンサート

東日本大震災から4年という節目の時期に開催した当館で2回目の避難訓練コンサート。2011年開催の第1回を上回る約560名が訓練にご参加くださいました。今回は、水戸市地域安全課・小林良導さんの防災講演、大成女子高校と水戸女子高校両校吹奏楽部の演奏をお聴きいただき、演奏の最中に行った避難訓練では、地震発生から約7分で全員が無事、広場に避難できました。今回のアンケートを通じていただいたご意見をもとに、水戸芸術館ではさらなる安全安心に取り組んでいきたいと考えています。《篠田》アンケートから■役に立つコンサートでした。大成女子高、水戸女子高ともに素晴らしい演奏でした。(水戸市の方) ■災害時はすぐ逃げたのではなく、情報を得てから動くことが重要と知った。(水戸市の方) ■市民にとっても芸術館にとっても有意義で面白い試みだと思います。避難路が10あることに驚きました。(水戸市の方)

2015.3.11

河村尚子 ショパン・プロジェクト 第2回

今回は「思い出のショパン～師・クライネフに捧ぐ」と題し、河村さんがヨーロッパで師事していた名教師ウラジーミル・クライネフ氏(1944～2011)との思い出深い作品が取り上げられた。なかでも、〈ピアノ協奏曲第2番〉は、クライネフ氏の十八番で、河村さん自身も2004年の日本デビュー時に取り上げた思い出のある作品。今回はクアルテット・エクセルシオとの共演でピアノ五重奏版が演奏され、河村さんのロマンティックなピアノとエクセルシオの温かみのある弦の美しい調和が聴衆の耳をひきつけた。〈ソナタ第2番〉(24の前奏曲)が取り上げられる第3回(2016年2月11日)もお楽しみに。《関根》アンケートから■3/11に水戸に来てくださってありがとうございます。今までショパンの〈ピアノ協奏曲第2番〉は、最初がヤバ

だと思っていたのですが、今日の五重奏を聴いて、ショパンの頭の中で鳴っていたのはコレなのかとスッパリしました！(水戸市：M.S.さん) ■河村さんとエクのファンで、一緒に〈ピアノ協奏曲第2番〉をやるというので、平日ですが東京から駆けつけました。感動しました。(東京都：K.S.さん) ■河村さんのすばらしい演奏により、ショパンの世界を堪能させてもらいました。至福の時間でした。また次回を楽しみにしています。(水戸市の方)

2015.3.15

「市民のためのオルガン講座」 実技レッスン受講生による発表会

2014年9月から半年間、実技レッスン(計12回)に参加した5人の受講生が発表会を行った。丁寧なご指導が好評の講師・室住素子さんによる温かみのある司会進行のもと、小学4年生の男の子から40代の主婦の方まで、日々の練習の成果が発揮された秀演が続き、晴れやかな卒業の舞台となった。発表者からは「一生の思い出になった」という嬉しいご感想もいただいた。《高巢》アンケートから■演奏中はず～っと目を閉じてきておりました。ありがとう！(水戸市：A.N.さん) ■パイプオルガンという財産を有効に生かすために市民がこのような楽器を利用できるのは大変良いことだと思いました。(日上市：K.S.さん)

2015.3.21

準・メルクル ヴァイオリン貸与 プロジェクト 貸与者による発表会

水戸室内管弦楽団と長年共演している指揮者、準・メルクルさんが寄贈して下さったヴァイオリン4挺の貸与者たち(出口恵大さん、小林日和さん、野口わかかなさん、古谷麻柚子さん)による、学びの集大成としての発表会が、エントランスホールにて開催された。18～20世紀のヨーロッパ製のヴァイオリンを通して成長した4人の堂々とした演奏が披露され、若き音楽家たちの今後の飛躍が期待されるひとときとなった。《高巢》

2015.3.22

水戸うらら女声合唱団 第7回演奏会

1976年に誕生以来、精力的な活動を続けている水戸うらら女声合唱団の第7回演奏会。故木下保氏が提唱した「やまとことば」の継承者である中澤敏子氏の指揮、田中直子氏のピアノで、増本伎共子(梁塵秘抄)、池辺晋一郎(万葉ひたちの歌)(朗読：中澤敏子、友情出演：みと葵女声合唱団)、信長貴富(編曲)〈赤い鳥小鳥〉、なかにしあかね(花の風)などが演奏された。団が目標としてかかっている「美しい日本語の発音と響き」が、ホールいっぱいに広がった。また、増本氏のお話や、団員の独唱による増本氏の歌曲も、演奏会に花を添えた。《関根》アンケートから■詩歌文学と音楽の見事な融和に感動いたしました。益々のご活躍をお祈り申し上げます。(常陸大宮市の方) ■今日はピアノも合唱に寄り添い、独唱も朗読も楽しめ、とても良かった。(水戸市の方) ■中澤先生がますますチャームिंगになっておられて、感激しました。(笠間市の方)



3：茨城笛の会 第35回日本フルートフェスティバル in 茨城
4-5：避難訓練コンサート
6：河村尚子 ショパン・プロジェクト 第2回
7：「市民のためのオルガン講座」実技レッスン受講生による発表会
8：「準・メルクル ヴァイオリン 貸与プロジェクト」
貸与者による発表会
9：水戸うらら女声合唱団 第7回演奏会

水戸芸術館の主な5・6月のスケジュール

コンサートホール ATM

- 水戸室内管弦楽団 第93回定期演奏会(第2部指揮:小澤征爾)
5/15(金) 19:00開演、5/17(日) 14:00開演
料金[全席指定] S席 ¥15,000 / A席 ¥12,500 / B席 ¥10,000
- 高校生のための水戸室内管弦楽団メンバーによる公開レッスン
5/16(土) 14:00開始 入場無料(要整理券)
- 地域共催事業 ソフィア少年合唱団
6/4(木) 19:00開演 料金[全席指定] ¥3,000
- ちょっとお昼にクラシック 武久源造(フォルテピアノ)
6/17(水) 13:30開演 料金[全席指定] ¥1,500(1ドリンク付き)
- Duo ponte nota リサイタル 2015
6/28(日) 14:00開演
料金[全席自由] 一般 ¥3,000(当日 ¥3,500) / 高校生以下 ¥1,000

エントランスホール

- パイプオルガン プロムナード・コンサート《こどもの日スペシャル》
5/5(火・祝) 大木麻理、久保田彩佳(ソプラノ)
13:30~(45分程度) 入場無料
- パイプオルガン プロムナード・コンサート
5/23(土) 池谷瑞季、6/6(土) 徳田佑子、20(土) 木下啓香、27(土) 本田ひまわり
各日 12:00~/13:30~(各回30分程度) 入場無料
- プロムナード・コンサート EXTRA
5/31(日) 関美矢子(オーボエ)、稲生亜沙紀(ピアノ)
12:00~/13:30~(各回30分程度) 入場無料

ACM 劇場

- ゆうくんとマツさんの『カレーパンでやっつけよう』
5/2(土) 13:00開演、5/3(日・祝)~6(水・振) 各日 11:00開演
料金[全席指定] 大人 ¥1,500 / こども(3歳から小学6年生) ¥800
- ACM劇場プロデュース公演/未来サポートプロジェクト Vol.5 『赤シャツ』
6/11(木) 19:00開演、6/12(金) 14:00開演、
6/13(土) 14:00 / 19:00開演、6/14(日) 14:00開演
料金[全席指定] SS席 ¥4,500 / S席 ¥4,000 / A席 ¥3,500 / B席 ¥3,000
U-25(25歳以下) ¥2,500
- (第47回 水戸市芸術祭) 謡と仕舞の会
6/28(日) 10:00開演 入場無料[全席自由]

現代美術ギャラリー

- 山口 晃展 前に下がる 下を仰ぐ
2/21(土)~5/17(日) 9:30~18:00 ※入場は17:30まで
[休館日] 月曜日 ※ただし5/4(月・祝)は開館
[入場料] 一般 ¥800 / 前売り・団体(20名以上) ¥600
※中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付添いの方1名は無料
- クリテリウム 90 大久保あり ※料金は展覧会の入場料に含まれます。
- (第47回 水戸市芸術祭) 入場無料
□いけばな展 6/5(金)~7(日) 9:30~
□美術展覧会 [第1期] (日本画・洋画・彫刻・工芸美術)
6/14(日)~26(金) 9:30~18:00 ※入場は17:30まで

2015年度「市民のためのオルガン講座」受講生募集!

オルガニスト・室住素子さんによる丁寧なご指導のもと、国産最大級のパイプオルガンを弾いてみませんか?詳しくはチラシや当館HPをご覧ください。
[コースと定員] ■Aコース:実技レッスン(定員5名) ■Bコース:一回体験(定員12名)
[スケジュール]
◎オリエンテーション 7/25(土) 18:00 ※Bコースの方は参加不要
◎実技レッスン日程(全12回)
9/14(月)、10/13(火)、10/26(月)、11/9(月)、11/24(火)、12/7(月)、
12/14(月) 2016年 1/4(月)、1/18(月)、2/8(月)、2/29(月)、3/7(月)
◎Aコース受講生による発表会 2016年 3/12(土) 13:00~
[受講料] ■Aコース 40,000円/■Bコース 2,000円
[申込締切] 6月2日(火)
[提出資料] ①申込用紙 ②82円切手を貼った返信用の定型封筒
※申込用紙は下記の方法で入手可能
①水戸芸術館窓口にて直接入手
②水戸芸術館ホームページからダウンロード
③82円切手を貼付し返信先を記入した定型封筒を同封の上、下記宛先に郵送
[申込先・お問い合わせ]
水戸芸術館音楽部門「市民のためのオルガン講座」係
〒310-0063 水戸市五軒町1-6-8 TEL 029-227-8118

《第九》コーラス参加者募集!

水戸芸術館では、年末に開催する「水戸の街に響け! 300人の《第九》」のコーラス参加者を募集いたします。詳しくは、応募要項をご覧ください。
[公演日] 2015年12月6日(日)
[演奏曲目] ベートーヴェン《交響曲第9番》第4楽章
[応募資格] 9月~12月に水戸芸術館で行う練習に参加できる方(経験不問)
[参加料] ¥2,000
[申込締切] 7月31日(金)
[応募要項の請求方法]
①水戸芸術館窓口にて直接入手
②水戸芸術館ホームページからダウンロード
③82円切手を貼付し返信先を記入した定型封筒を同封の上、下記宛先に郵送
※水戸芸術館ホームページにてオンライン申込も受け付けています。
[お問い合わせ]
水戸芸術館音楽部門《第九》係(担当:関根・篠田・稲田)
〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8
TEL: 029-227-8118 FAX: 029-227-8130

チケット・インフォメーション

《4月25日(土) 発売分》

- ちょっとお昼にクラシック 室住素子(パイプオルガン)
7/20(月・祝) 13:30開演
料金[全席指定] ¥1,500(1ドリンク付き)
- フィリップ・トンドゥル オーボエ・リサイタル
8/11(火) 19:00開演
料金[全席指定] 一般 ¥3,000 / ユース(25歳以下) ¥1,000
※チラシは来月号に同封されます。
※4/21(火)より財団運営維持委員会、4/22(水)より友の会(一般、法人)会員の先行予約を受付けいたします。

これからの演奏会・残席情報

- …残席あり(20席以上) △…残席わずか(20席未満) ×…残席なし
中央…中央ブロック 左右…裏…左右ブロックおよびステージ裏 補助…補助席
- ◎水戸室内管弦楽団 第93回定期演奏会(第2部指揮:小澤征爾)
……………5/15(金) 完売、5/17(日) 完売
- ◎ちょっとお昼にクラシック 武久源造(フォルテピアノ)
……………6/17(水) 中央○、左右○
- ◎Duo ponte nota リサイタル 2015……………6/28(日) 自由席○
- ※3/31(火)現在の状況です。
※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

チケットに関するお問い合わせ

水戸芸術館チケット予約センター TEL 029-231-8000
営業時間: 9:30~18:00(月曜休館)
公演内容や企画に関するお問い合わせ
水戸芸術館音楽部門 TEL 029-227-8118
ホームページ <http://arttowermito.or.jp/>
公式ブログ <http://concerthallatm.blog101.fc2.com/>
ATM 便り 毎月1回茨城新聞に不定期登場
twitter @ConcertHall_ATM

編集後記

犬が飼いたい、犬が飼いたい…今の自分に必要なのはフワフワの相棒だと思っております。春の暖かな陽射しの中、散歩させている人たちが羨ましくてたまりません。妄想上の愛犬の名前を考えて、人知れず楽しんでます。(り)

だんだん増えるうちの猫の抜け毛をみて、春の訪れを感じる今日この頃。私が教育実習で担当した生徒さん達がこの春大学を卒業。当時高校生だった彼女達もすっかり大人びていて、キラキラしていた!感慨深いものです(稲)

ライオンに追いかかれた人の叫び声を録音したCDがあるらしい。「あれはおもしろいですよ」と筒井康隆氏が紹介していた。ホンモノの実況録音? それとも芝居? 収録時間は? 録音の最後は? とても気になる。(篠)

どんな時も合唱団の発声法でしか歌えなかった私ですが、このところカラオケによく行くようになって改善(改善?)されてきた模様。しかし、最近の早口な曲は一切ダメ。70~80年代の歌謡曲に偏っております。(て)

オルガン講座、実技レッスンはもちろん一回体験も味わい深い。小さい娘を膝にのせながら小フーガを弾くお母さん、かの大作曲家風のカツラをかぶりノリノリで弾く大学の先生…同じ1時間でも人生色々。皆さまもぜひ! (樹)

今春から高校生の娘に、片道7km位なら自転車通勤で通えと言っている。そう偉そうに話す自分は、芸術館までの自転車通勤を試みて、何年も前に挫折している。電動アシスト付き自転車ならいかも考える軟弱な自分に喝! (中)

水戸芸術館音楽紙 [ヴィーヴォ]
2015年5+6月発行 第198号
編集発行: 水戸芸術館音楽部門
〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8
TEL 029-227-8118 FAX 029-227-8130
E-MAIL ankmr@arttowermito.or.jp
URL <http://arttowermito.or.jp/>
編集: 水戸芸術館音楽部門(五十音順) / 石井亮子
稲田枝里子 篠田大基 関根哲也 高巢真樹 中村晃
デザイン: 藤澤絢子
印刷所: 山三印刷株式会社